

協議会（国語・英語）報告書

文責：研修部（松浦）

1 授業反省・交流に関して

【国語】

（安藤）：導入で、2月の全国臨時休校を伝えるテレビの映像と新聞記事、ネットのニュース（紙）を見せた。教科書の本文の内容も含めて、それぞれのメディアの特徴を比較し、ワークシートにまとめさせた。「南海トラフ大地震の発生時に使用することが一番ふさわしいメディアを考え、理由とともに書く」については次時に行く。

（松浦）：いつもなら文を示して、文節の働きを考えさせるが、逆をやってみた。22枚の文節カードから5つの文を作らせる活動を行った。少し難しいかなと思ったが、グループ活動の会話から子どもたちの思考が見えた。「主語」や「述語」「修飾語」の言葉が出ていてよかった。

【英語】

（豊田）：震災の避難所について、英語で案内することを目指す。総合のサバフロ（日比崎サバイバル・プロジェクト）とリンクさせたい。ALTのカリナに各国の避難所についてスピーチしてもらった。パンフレットの製作に向けて、各グループで、案内する内容を話し合わせた。

（種元）：自分の人生設計をテーマにスピーチさせた。まず私がスピーチのモデルを示した。お互いに改善策をアドバイスさせた。指導主事からアドバイスシートをいただき、活用した。改善策をもとに原稿を修正して2回目の発表をさせた。

2 指導者による指導・助言に関して

- ・どの授業も、力のつく授業だった。子どもの変容が一時間の中でもたしかに見てとることができた。
- ・各授業の中で、できないことができるようになるための丁寧な手立てがなされていた。
- ・ワークシート（対比表）を活用し、長所、短所などの情報を確実に整理していた。
- ・生徒の発言に対して、適切な切り返し発問が行われ、生徒がより深く思考できていた。
- ・生徒たちがSNSについてたくさんの情報を持ち、自分なりの意見をもっていることに感心した。日頃の生活指導や情報モラル教育が定着していると感じる。
- ・生徒と先生の距離感が近く、関係の良さを感じた。
- ・指導内容が1年生には難しいかなと感じたが、グループ活動であれこれ意見を出すことで達成できていた。少しレベルの高い学習を仕組むことも必要。話し合い活動の成果を感じる。
- ・小学校での既習内容をよく理解した上で中学校の学習内容を仕組むことが必要である。
- ・指導者のモデルスピーチがあることで、写真の見せ方、ジェスチャーなどの工夫に生徒が気づいてスピーチを改善できていた。1回目と2回目でほとんどの生徒のスピーチが改善されていた。
- ・ALTの先生からのプレゼント（6カ国の避難所の紹介）を見て、「尾道はどうなの？」と強い達成要求をもって学習に取り組んでいる。英語版のパンフレットを作成とのこと、期待している。
- ・ALTをもっともっと活用してほしい。カリナ先生の活躍場面をもっと探してほしい。
- ・今後も日比中全体で力のつく授業を進めてほしい。